

日本重症心身障害学会

令和6年度第2回理事会議事録

日時 令和6年6月17日(火) 19:00~21:30  
場所 オンライン開催  
議長 口分田政夫 理事長  
出席 船戸正久、村田博昭、石井光子、木実谷哲史、後藤一也、佐々木征行、須貝研司、  
鈴木郁子、曾根翠、中川栄二、根津敦夫、松葉佐正、濱口弘、山田直人  
書記 田中総一郎 (敬称略)

議 題

1. 報告事項

1) 会務報告(口分田) 資料に沿ってご報告。

- ・ 1月 能登半島震災 情報の共有。
- ・ 2月~4月 学会ロゴマーク WG でロゴマーク作成 (光を意味するガーベラと支えるという意味を持つシロタエギクと SMID という文字で構成されている。「重症心身障害の存在は光であり、社会でささえあう」という学会の理念を表現している)
- ・ 2月 東京都周産期医療協議会委員に曾根先生を推薦。
- ・ 3月 読売の学会優秀論文賞 復活について、熊谷先生と協議。小林先生の講演動画作成
- ・ 4月 コネクタ問題 WG からの賢い使い分けマニュアル発行
- ・ 4月 新名誉会員に理事長名で、就任依頼の手紙を出した。
- ・ 4月 事務職員労災保険の手続き終了
- ・ 5月 秋田大学医学部 事故調査委員会 終了。
- ・ 5月 メディカルオンライン 学会誌情報と詳録のみ最新号まで掲載。全文掲載は、j-stage と進捗をあわせて掲載していく。

2) 令和5年度事業報告

① 第48回学術集会開催報告(石井前会長)

2日間合計で1112人の参加。有意義な学会運営がなされた。180部準備した抄録集が一日目で完売した。前登録人数からは250部くらいの必要であった。

② 委員会・部会報告

- i. 将来検討委員会(根津)、学会体制整備検討部会(松葉佐)、多職種で取り組み、

制度を勝ち取る。歴史・用語・理念・倫理部会(根津)学会の歴史、用語、理念、生命倫理について検討を行う。

- ii. 社会活動委員会(石井)、医療的ケア児・者支援検討部会(田中)、病院内と在宅での医療的ケアの違い、在宅医療の課題、児者を通して移行期支援も重要な課題と考え取り組む。  
新規コネクタプロジェクト WG (口分田) 賢い使い分けマニュアルをホームページにアップした。腸内フローラを重要視したミキサー食には旧規格が合っている。手のねじり動作は介護者の負担になり、チューブの劣化につながる例もある。一方、大きな病院などでは単一規格しか取り入れることができない。新規格でも、ミキサー食を取り入れているところがあるが課題もある。
- iii. 医療・福祉制度検討委員会(木実谷) 医療・福祉制度の検討には、これから医師だけでなく、多職種による検討が大切になる。
- iv. 看護専門研修委員会(口分田) 日本重症心身障害福祉協会で重症心身障害看護師(専門制度)の研修制度が行われていて、連携をとっていく。
- v. リハビリテーション委員会(鈴木) 委員が集まって2か月ごとに委員会(勉強会)を繰り返している。学会では委員会のシンポジウムを毎年企画している。他の理事より推奨の意見あり。
- vi. 倫理委員会(鈴木) 倫理には、臨床倫理と研究倫理があるが、ここでは研究倫理を深める。研究を行うときの倫理チェック項目を作成する。ホームページなどに載せていきたい。また臨床倫理とダブることもあるので、今後共有できることは共有したい。臨床倫理の根津先生と相談していくこととなる。
- vii. 基準・手順・治療指針・マニュアル検討委員会(佐々木)、重症心身障害児・者てんかん治療指針作成部会(須貝)、痙縮治療部会(根津)、呼吸器・感染症WG(佐々木)  
てんかん(須貝先生) てんかんの頻度を減らすことで、外傷・合併症などを減らすことができる。学会の試案をもとにガイドラインを作成していく。  
痙縮(根津) 脊柱変形に対する固定術などに関するアプローチも大切。  
呼吸器・感染症WG コロナなどウイルス感染(村田)、誤嚥性肺炎(竹本)、喘息(徳永)
- viii. 日中活動・療育・ICT委員会(後藤) 国立病院機構の課題:療育指導員がサービス管理者となっていて、療育の現場での活躍の場が少なくなっている。
- ix. 編集委員会(中川) 一年間で24くらいの投稿あり。郵送ではなくメールでのやり取りでシステムとしてスムーズにできている。査読を断る評議員に困っている。

- x. Web・広報委員会(曾根) 令和5年度より内容を検討し、4回の委員会を経て、ウェブサイトリニューアルを行った。並行してロゴマークを理事会に依頼して選定。会員専用ページを作成した。
- 3) 令和5年度収支決算報告及び監査報告(曾根理事・庶務幹事、浜口・山田監事)
- 収入合計 予算 20,736,133 決算 22,268,451  
支出合計 予算 16,529,000 決算 16,857,900  
単年度の予算と決算の差し引き -1,171,000 次年度繰越金 6,910,551
- 本学会は8割程度の会員から年会費の支払いがされているので、収入増のためには会員数を増やすことが重要である。事務局から連絡を入れても3年間年会費未納の会員は退会としている。
- 浜口先生・山田先生より、会計監査上、間違いなく処理されていることを確認した。
- 4) 会員動向及び役員人事(曾根理事・庶務幹事)
- 令和4年度会員数 2028人 令和5年度 2092人 +66人 入会 361, 退会 -297人  
会員管理システム導入後、会費納入にクレジットカードの支払いを使う会員が予想以上に多い。
- 5) その他

## 2. 協議事項

- 1) 令和6年度事業計画(案)
- ①第49回学術集会の開催(船戸会長) ランチョン6、書籍1、企業11の応募あり。演題募集中。
- 謝礼について学会で統一する必要があるか。船戸先生よりの提案：会員の場合 参加費・謝礼・交通費支給なし、非会員：教育講演 3-5万円、シンポジストとパネリスト 1-2万円、座長1万円。検討の結果、それぞれの大会長に一任するとした。
- ②学会誌の発行 順調に投稿論文も集まっている
- ③総会、諸会議の開催 今年度から対面で行うこととする。
- 2) 令和6年度予算(案) 会費が8000円に上がり、予算が増額された。ウェブサイトリニューアル費用支払いが令和5年度から令和6年度にずれ込んでいる。
- 3) 重症心身障害 QOL 懇話会後援について(曾根) 平成18年から始められた重症心身障害児者 QOL 向上懇話会について、後援と参加者募集のシステムを学会で行えないかという発題。今回は後援を見送る方針となった。
- 4) 第50回(令和7年度)学術集会準備状況(国立病院機構三重病院 村田先生)
- 三重県津市 三重県総合文化センター 2025年11月21日~22日

- 5) 第 51 回(令和 8 年度)学術集会 愛媛県 岩本先生
- 6) 第 52 回(令和 9 年度)学術集会会長選任
- 7) その他 学会開催中に各委員会を行う部屋を用意すべきか。大ホールの楽屋が使えると思われる。編集委員会以外の活動費として 10 万円+消費税分を令和 6 年度予算案に追加計上することとなった。

### 3. その他